

症例報告され、我々も Autoimmune thyroiditis に腎障害を伴った2症例を検討した。2症例もと蛍光抗体間接法では腎糸球体に Thyroglobulin の特異蛍光は認められなかったが、血中の甲状腺自己抗体が高値で、1症例においては血中免疫複合体も高値であり、2症例とも蛋白尿、血尿を呈し、腎糸球体末梢係蹄壁に免疫複合体の沈着が証明され、甲状腺組織抗原による免疫複合体腎炎が強く示唆された。

41. 当院におけるループス腎炎の検討

住田孝之, 伊良部徳次, 吉田象二
大谷 彰, 諸橋 芳夫 (旭中央)

腎生検を施行したループス腎炎23名について WHO 光顕分類と腎機能, 尿蛋白量, 各抗体, 補体との関係を検討した。また, 腎病変を半定量的に評価する pathological score (以下 PS) を考案し検討した。結論①膜性腎炎, 中等度以上のびまん性増殖性腎炎に尿蛋白量の増加, 腎機能の低下を認めた。②抗 RNP 抗体, 抗 DNA 抗体と腎機能, 尿蛋白量とは相関しなかった。③PS と腎機能は相関がみられたが, 尿蛋白量とは相関を認めなかった。

42. 高齢に見られた汎下垂体機能低下症の1症例

蓮沼桂司, 斉藤正明, 田原和夫
渡辺幹夫, 館野純生, 鈴木直人
浜崎智仁, 宋戸英雄, 磯田和夫
(国立佐倉)
三上恵只 (千大)

症例, 63歳の女性で, 全身倦怠感, 食欲不振を主訴として来院。現病歴: 40歳で第5子出産時, 大出血があり, 42歳で月経閉止。以後, 恥毛脱落, 全身倦怠感, 貧血などの症状が出現した。現症: 動作緩慢, 無気力, 低血圧, 皮膚乾燥, 頭髪はやや赤い。眼瞼結膜は蒼白で, 眉毛, 腋毛, 恥毛の脱落を認めた。検査所見で, 貧血, 低血糖, 低 Na 血症があり, 内分泌学的検査より sheehan 症候群を疑い, 下垂体前葉ホルモン刺激試験を行なった。ACTH, GH は無反応, その他のホルモンも低反応で, 汎下垂体機能低下症と診断した。

43. 糖尿病合併末端肥大症の1例

林 良明, 波多野 等, 永井 順
(沼津市立)

症例, 38歳男。昭和56年8月全身倦怠感, 口渇訴え入

院。身長166cm, 体重68kg, 末端肥大症様顔貌。頭部 CT で下垂体腫瘍判明。GH 85ng/ml, GH 刺激試験で TRH 反応型, CB-154にて GH 抑制あり, 他の pituitary hormone 正常。50g OGTT で前血糖307, 30分455, 2hrs 396mg/dl, IRI は全て 5 μ U/ml 以下。Acromegaly の low insulin D.M は GH に対する膵 β 細胞の不応性に因るとする Luft 説を術後の耐糖能検査で追試予定。

44. 甲状腺及び卵巣機能異常を伴った Addison 病の1例

日野 真一, 浅子由己, 上野正和
五十嵐正彦, 隆 元英 (国立習志野)

症例は34歳女性。昭和47年全身倦怠, 頭痛にて発症。その後皮膚, 粘膜色素沈着, 無月経等多彩な症状を認め, 昭和56年8月入院。内分泌学的検索にて, 甲状腺機能異常及び原発性卵巣機能不全を伴った Addison 病と診断されたが, 病因については, 確定するには至らなかった。

45. 異所性 ACTH 症候群

—COMP 療法をみた1例について—

後藤孝史, 斉藤 博幸, 小方信二
安 徳純, 吉田勢津子, 吉田 恒
森 上, 松本一暁 (成田赤十字)

既に多発性骨転移の疑われる肺小細胞未分化癌の患者が著明な低K低Cl血症を呈していた (Na, Ca は正常である)。血中 ACTH は >500pg/ml, アルドステロンは 141.0pg/ml と著増を示し, 異所性 ACTH 症候群と診断された。COMP 療法を試みるとレ線上の改善と共に, ACTH は 91pg/ml, アルドステロンは 55pg/ml へと正常範囲内に減少した。Kは開始直後より1過性の上昇をみている。以上, 腫瘍マーカーとしてのホルモン値を, 治療のモニターとしえた1例である。

46. Aldosteron 症における高血圧と R-A-A (Renin-Angiotensin-Aldosteron) 系

47. 境界型および持続型本態性高血圧患者における交感神経系, レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系の相関について

三上 恵只 (千大)

51名の本態性高血圧患者を, 境界型と持続型に分け,